

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1  
愛知県東大手庁舎 1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月～金 10～17時



## タイトル「てつぼうであそんでうみに出よう」



※交流会ノートから抜粋した絵を使用しています。

工藤結愛さん 9歳(小学4年)

### <表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています>

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明(30字程度) ③掲載するお名前 ④学年(年齢) ⑤保護者の方の連絡先(氏名・メールアドレスまたは電話番号)を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。

### <発送作業のボランティア募集>

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

6月10日号の予定			6月25日号の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	6月9日(木)	午後	封入作業	6月23日(木)	午後	愛知県被災者支援センター TEL:052-954-6722 (渡邊)
発送作業	6月10日(金)	午前	発送作業	6月24日(金)	午前	

この度の熊本地震において、被災された皆さま、ご家族の方々に心よりお見舞いを申し上げます。

熊本地震の被害の大きさを見て、大きな地震が来ると言われている土地に住む人々への、「初心に戻れ」というメッセージを感じました。大きな地震を体験しないと、なかなか危機感を持っていません。私自身がそうでした。東日本大震災で恐い経験をしたからこそ、備える気持ちが持てるし、これを周りの人に伝えていきたいと思えます。

私は5年前に避難してから昨年まで、東日本大震災後のことを恨む気持ちが整理できずにいました。その気持ちを抑えるために、日々を忙しく必死に生きてきた気がします。

それが最近前向きに思えるようになったのは、「あおぞら」の編集委員を続けてきたからだと感じています。編集委員に加えていただいたのは4年前。被災者登録をしたのと同時期でした。編集委員をやる中で、被災者支援センターの皆さんと話したり、イベントに参加する機会が増え、多くの被災者、避難者の方と出会い、何でも話せて共感してくれる仲間ができました。

被災の程度はさまざまでも、傷ついた気持ちは皆同じ。だから同じ目線で支え合うということ、知り合った皆さんから学びました。それまで私は、避難元、出身地、経験等、いろいろな壁をつくって、生きにくくしていたなーと気づきました。これは私の生き方そのもの。

東日本大震災は恐くて、辛い経験ばかりだけど、とても大事なことを教えてくれました。今までは少し無理をして、人のため



＜飛島村でのもちつき大会での一枚。飛島村の皆さまにお会いすると、いつも心がホッコリと温かくなります。＞

に何かやろうと思っていましたが、今は心の底から自分がやれることをやろうと思えます。東日本大震災で学んだことも、意味があるのだと思えます。本当に「あおぞら」、被災者支援センターの方々に感謝しています。ありがとうございます。

先日、息子と一緒に、被災者支援センターの運営団体である「レスキューストックヤード」の熊本地震への街頭募金に参加しました。たくさんの人が募金箱に近寄り、息子の頭を撫でてくださいました。その後から息子は熊本地震のニュースをよく見るようになり、「東日本大震災や熊本地震のようなことはもう起こって欲しくない」と言っています。被災者支援センターのイベントで、ボランティアの皆さんに関わってもらいながら、彼自身気づくこともあるのだと思います。支え合う大切さを、子どもたちの世代にも自然な形で伝えていけたらと思っています。

(あおぞら編集委員 山本由香)

## インタビュー

4月5日。名鉄鳴海駅で待ち合わせ、住宅街の静かな場所でお話を聞かせていただいたのは、千葉県から名古屋市緑区のご実家に避難して来られた工藤映子さん。

当時、千葉県我孫子市に新居が完成間近、ゴールデンウィーク過ぎには新たな生活が始まる予定だったそうです。そんな時に福島原発事故があり、「周囲の人の放射性物質に対する感覚と自分とのギャップにショックを受け、人体への影響を勉強するうちに眠れない日々が始まった」と話し始められました。

長男が通っていた小学校校庭の除染を、同じ想いを持つ人たちと一緒にお願いしても、迅速な対応がされなかったそうです。また運動会の開催についても、親たちの懸念をよそに市内校長会の意向で統一開催決定、ジレンマとストレスばかりだったと言います。

あの事故がもたらしたものは、これまでの人生観が根底から覆される経験、人生観が変化したことです。そして、子どもたちのこれからを熟慮し、避難を決意されました。「原発・放射能」が頭の中を埋め尽くして混乱した中「自分自身の心のベクトルを変えるようなものを得たい」との思いから、「1級建築士」を受験されることを決意、見事合格されたそうです。今振り返ってみればこれが工藤さんにとっては一つの大きなターニングポイントだったのではなかったかと考えさせられました。

5年という時間は子どもたちの姿を大きく変えていきます。当時、長男は小学2年生、次男2歳。縁あって借りた畑は100㎡近くあり、そこでは今まで持ったことのない、カマ・クワを駆使しての畑づくりもすでに3年目に入るそうです。さらには、今



年から収穫した大豆を使っての味噌づくりも親子で楽しんでおられると言います。

車に乗せていただいた時も「農作業にも使っているもので」と恥ずかしそうに詫びられていましたが、豊かな時間を送られている様子がうかがえ、子どもたちの泥だらけの姿を想像しました。

「日暮し設計室」と刷り込まれた名刺。絵柄の中で緑樹にぶら下がり、憩っているのはミノムシでしょうか。そんなイラストを取り込んだ名刺には彼女の仕事に対する思いがこもっているのでしょう。「たくさんの方が集うようなところを作りたい」との夢を持っていらっしゃるようです。

避難して来た彼女にとって、天白区の相生山・徳林寺は心を癒してくれた場であり、さまざまな人との出会いがあった場であり、本当にありがたい場であると言います。

自分が生まれ育った故郷に立ち戻ってきて、改めて発見したのは「人」であり「場」のようです。彼女が名づけ、立ち上げた事務所が、そんな大らかな空間を生み出す「場」であることを願っています。

此の地鳴海は芭蕉を慕う人たちが集い供養塔やお堂を建立された実績のある「場」であることを付け加えたいと思います。

(あおぞら編集委員 伊藤廣昭)

めぐりあい交流花見会 2016 へ参加して

東日本大震災から6年目の春を迎え、今年も「めぐりあい交流花見会」へ参加させていただきました。毎年参加させていただいていて、今年もそんな季節になったんだと2011年を振り返り、しみじみしています。震災の年は下の子はまだ0歳、上の子も2歳でしたので、とても大変だったという記憶と、あの頃は口答えもせず可愛かったなという記憶がよみがえります。避難してまもなく開かれた交流会では、同郷の方々と知り合うことができ、話をすることで癒されたり、勇気づけられたりしました。それもこうして支援してくださる皆さまのおかげだと思い、感謝しています。この場を借りてお礼を言わせていただきます。いつもありがとうございます。

今回の花見会は大高緑地での開催でしたので、子どもたちも前の晩からとても楽しみにしていました。当日は桜もちょうど満開で、さくらの園ではたくさんの桜を観ながら、知る人ぞ知る地元の話で盛り上がりました。その後のバーベキュー



<桜を観ながら散歩中>

では、なみえ焼きそば等、故郷を思い出しながらおいしくいただきました。こういう機会があると、福島の話が訛りながらできるのでうれしいです。さみしい気持ちもあるけれど、前に向かって進むしかないんだという気持ちになります。

それから、今回の交流会で20年振りに友達との再会を果たすことができました。中学1年の時に部活が一緒で、仲良くさせてもらっていて、その後は転勤されて音信不通でしたが、なんと！めぐり会うことができました。お互いに愛知県で再会することになるとは思わなかったし、当時の面影もなかったけど、話せばすぐに中学1年に戻りました。お互い被災はしたけれど、家族全員元気でこうして再会できたことに感謝です。

長かったようなあつという間だったような複雑な気持ちですが、6年目、これからも皆さまに支えられながら、前を向いて行きたいと思います。ありがとうございます。



<横断幕の前で休憩中>

(避難元福島県南相馬市 高橋佳世)

## 支援団体紹介（生活協同組合コープあいち）

コープあいちが、「愛知県被災者支援センター」へ協力して活動をはじめたのは、東日本大震災が発災し、即結成された「あいち・なごやボランティア連絡会」へ参加させていただいたことからでした。

当初は情報が少なく、どのようにボランティア活動して良いか分からないため、定期的で開催される会議へ参加をして、情報収集と全国の生協で取り組んでいる緊急物資等の状況をお伝えしていました。

並行して、被災され、愛知県へ避難される方が増えている状況の中で、緊急に生活用品等を配達する必要が生まれました。当初は県庁まで物資を取りに来ていただくの方針でしたが、配達ができるメリットを生かしてお届けすることになりました。緊急物資のお届けが主でしたが、愛知県は製造業なども多いため、提供された製品のお届けなどをしていました。その中で、いただいた物資を届けるだけでなく、もっとニーズを聴いて、その方の暮らしに必要なものをお届けするという、個々の世帯への対応が大切なことを他の団体の皆さんと共有し、その後、飛島村から提供いただいたお

米の配達を通じて、定期的にお声をお聴きして、必要なニーズ等を支援センターへお伝えする取組みに発展し、現在に至っています。

その後、配達だけでなく交流会のお手伝いや相談への協力など、この間、組合員の暮らしを守るためのさまざまな取組みを広域避難者の皆さんにも活用をいただいています。

これは、生協はメンバーシップの組織（共益）ですが、共通の目標に向けて協同するという実践を通じて、組合員の中で「困った時はおたがいさま」（困った人、お手伝いする人、皆対等平等）という積み重ねられた経験からの思いがあるためだと思います。



<飛島村お米贈呈式  
2012年1月13日>



<ふるさと交流会 I N知多  
2011年9月4日>

### ○生協が大切にしていること

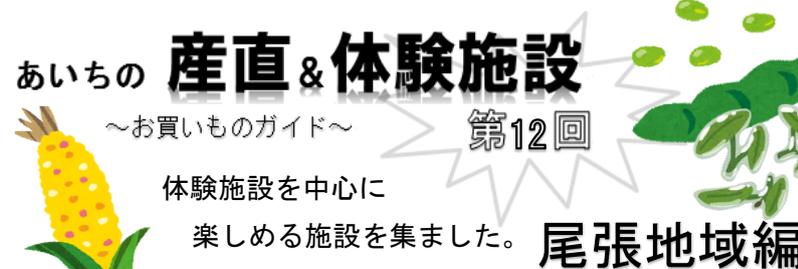
#### ①共通の目的の達成のために「協同」すること。

生協が生まれたのは19世紀の初めにイギリスからでした。資本主義の発展の中で厳しい労働や搾取が行われる中で、労働者の生活を自ら守るため、資金を持ち寄り、自ら運営に参加し、利用する組織を作りました。それが生協の始まりです。日本では2780万世帯が加入し、世界では10億人が加入しています。組合員自らが出資し利用し運営することを生協では「3原則」と言って、大切にしています。

#### ②一人は万人のために、万人は一人のために

「一人は万人のために、万人は一人のために」 「Each for All, All for Each」  
一人は万人のために⇒みんなと一緒にやっへ行こうということ  
万人は一人のために⇒一人の苦しみをみんなで見分ち合うこと

あいちの **産直&体験施設**  
 ~お買い物ガイド~ **第12回**  
 体験施設を中心に  
 楽しめる施設を集めました。 **尾張地域編**



今月号で紹介していない産地直売所・ふれあい体験施設については、県農林政策課が制作したインターネットサイト「あいちの農林水産産地直売所・ふれあい体験施設」でご覧になれます。



新緑の美しい季節になりました。青空も広がり、お出かけ日和が続きます。今回は、自然と触れ合う体験型の施設のご紹介です。地域でとれた旬の農産物や地元産の素材を使った加工品・料理などを提供する施設や畑の収穫体験など普段と違った体験ができる施設です。その体験が日常生活にヒントを与えてくれます。地元の人との交流も地域に根ざした施設ならではの。あなたのお気に入りが見つかるはず。一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

**PICK UP**

**プラスワンカフェ**

場 所： 海部郡飛島村服岡 8-47-3  
 連絡先： 0567-69-5955  
 営業日時： 8：00～18：00（火曜日定休）



飛島村でお店を始めて、地元の方に支えられ今年の11月で開店して3年になります。プラスワンカフェでは、地元の野菜を使って新鮮でおいしいモーニング、ランチを提供しています。飛島村特産のハウレン草を使ったシフォンケーキは大人気です。また、手作りにこだわり食パンやドレッシング、あんこなどできる限り手作りしています。平日は11種類から選べるモーニング、土日はサンドイッチとシフォンをご用意しています。ぜひ一度お越しください。

**<尾張地域の産地直売所&ふれあい体験施設>**

No	施設の名称	住所・場所	営業日時	連絡先
①	名古屋市農業センター dela ふあーむ	名古屋市天白区天白町 平針黒石 2872-3	9：00～16：30（定休日：月曜日、年末年始（12/29～1/3））	052-801-5221
②	枇杷島学区女性会朝市	枇杷島学区集会所（名古屋市西区）	第2土曜日 9：00～ （なくなり次第終了）	052-521-6552
③	稲沢バナナ園	稲沢市祖父江町祖父江 南方 23	10：00～15：00（完全予約制）	080-3640-1874 （イシダ）
④	日進野菜塾・前川の畑と田んぼ	日進市蟹甲町池下 268	10：00～14：00	090-1798-4802
⑤	愛知牧場	日進市米野木町南山 977	9：00～17：00	0561-72-1300
⑥	フィッシュオン 春日井店	春日井市八幡町 86-3	平日 12：00～21：00 土日祝 9：00～21：00（定休日：水曜日）	0568-33-6886
⑦	道の駅 瀬戸しなの	瀬戸市品野町 1-126-1	9：00～18：00（定休日：年末年始（12/30～1/4））	0561-41-3900

●産直施設の営業時間は異なることがあります。定休日などをご確認のうえ、お出かけください。施設のホームページからも詳細を確認いただけます。





# 旬のお出かけ情報

## ～新東名高速道路沿線（三河）～



新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間（約 55km）が 2 月 13 日に開通しました。新東名を利用したついでに立ち寄れる施設を集めてみました。魅力的なスポットの観光もぐっと便利に近くなります。これを機にお出かけされてはいかがでしょうか。



### cafe 爾今（にこん）

場所：新城市下吉田柿本 43

アクセス：新東名「浜松いなさ」IC から約 10 分

連絡先：090-1232-2605

定休日：土・日曜日 ※ランチは前日までに要予約



静かな山の中のあたたかな古民家で過ごす優しい時間…。店主がこだわりの味わい深い珈琲を、じっくりゆっくり抽出。パートナーのあけみさんの手作りの塩パンやクッキー、予約をすればおいしいランチもあります。ここで出逢う人はみんな「今」を楽しむ大人たち。晴れの日も雨の日も、やわらかな一息が待っています。高線量地帯で暮らす子どもたちのための保養活動「おいでん！福島っ子！」では、このお店のおいしい Cafe 飯を毎年提供中。

### ＜新東名高速道路沿線のお出かけスポット一覧＞

No	名称	場所	アクセス	QRコード
①	そば道場葉膳亭 男川やな	岡崎市淡洲町字日向 23	新東名「岡崎東」IC～約 6.7km（車約 11 分）	
②	NEOPASA 岡崎	岡崎市宮石町字六ッ田 10-4	新東名上り線・下り線それぞれに設置。（※一般道からの来訪可）	
③	伊賀八幡宮	岡崎市伊賀町東郷中 86	新東名「豊田東」IC～約 8.4km（車約 19 分）	
④	豊田市 近代の産業と暮らし発見館	豊田市喜多町 4-45	新東名「豊田東」IC～約 7.5km（車約 16 分）	
⑤	リバーサイド園 ヨリタ	新城市庭野字萩野 23	新東名「新城」IC～約 6.2km（車約 10 分）	
⑥	長篠設楽原パーキングエリア	新城市富永住居田（下り） 新城市矢部字ユツリハ（上り）	新東名上り線・下り線それぞれに設置。（※一般道からの来訪可）	
⑦	里山カフェ&ピッツァ マルモリート	新城市能登瀬字北野 23-4	新東名「新城」IC～約 12.7km（車約 18 分）	
⑧	MILK 工房 スコット	新城市作手長ノ山	新東名「新城」IC～約 27.1 km（車約 45 分）	

●詳しい情報は各施設のホームページ等をご確認ください。



## ボランティアスタッフ紹介 ～ 東憲吾さん ～

支援センターのボランティアスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。  
第4回は「新聞すくらっぷ」ボランティアの東憲吾さんです。

昨年5月よりスタートした「新聞すくらっぷ」のボランティアに参加させてもらっています。朝日や日経など計5社の新聞社が出している震災関連の記事を切り抜き、一冊にまとめる、という活動です。定期便にて送付していますので、よかったら目を通してみてください。大事なニュースが盛り沢山です！

私は静岡県藤枝市出身で、東日本大震災が起きた当時は市内の高校に通う17歳でした。そして、震災の数ヶ月後に転校してきた宮城出身の女の子と知り合い、同世代の彼女のハードな体験談や悩みを聞きました。その時に力になれなかったことが、ボランティア活動を始めたきっかけです。少しでもいいから、皆さんの役に立つように。そんな思いで、「新聞すくらっぷ」などのボランティア活動を続けていきたいと思っています。



## 支援センターからのお知らせ

### <編集後記>

★子どもたちの作文から童話を書きました。→



(T.N)

★ピースボート災害ボランティアセンターの「災害ボランティア入門 (Web 検定)」を受けました。ほとんどのことはある程度理解できていると実感しました。(J.I)

★熊本地震被災者への街頭募金に親子で参加しました。多くの方がたくさんの募金をしてくださり、皆さんの何かしたいという思いに胸が熱くなりました。(Y.Y)

★新緑が目美しい。元来人見知りの私、人と話していて何か垣根が取り払われたような瞬間がうれしい。(K.T)

★「熊本の地震はとても心配です。読者の皆さまもご心配されていることでしょう。東日本で被災された皆さまの優しい声掛けが必要になるかと思いますので、その時はどうかお力になって差し上げてください」(H.T)

★熊本震災が発生しました。福島も揺れています。1日1日丁寧に暮らしたいと思えます。(E.K)

★「今回の地震の被災地、熊本県益城町出身の方とたまたま知り合いだった。故郷の悲惨な状況を聞きながら、がんばりましょう！としか言えなかった。がんばって欲しい！」(H.I)

★桜が散ると急に暑くなりだしますね。毎年、愛知県特有の暑さと格闘しています。今年はどんな夏になるのかしら。(Y.S)

●6月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。  
皆様のご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する  
ご意見ご感想はこちら

〒460-0001

名古屋市中区三の丸3-2-1

愛知県東大手庁舎1階

愛知県被災者支援センター

TEL: 052-954-6722

FAX: 052-954-6993

Mail: aozora@aichi-shien.net

